

会 記・訂 正

5. 会誌の発送に関する事項 会誌の発送は会費切れと同時に停止する。
6. 会員は転居、転職などを事務所に報告しなければならない。
7. 地区の構成は以下の通りとする。北海道地区：北海道、東北地区：青森、岩手、秋田、山形、宮城、福島、関東地区：茨城、栃木、群馬、千葉、埼玉、東京、神奈川、中部地区：静岡、山梨、長野、新潟、富山、石川、岐阜、福井、愛知、三重、近畿地区：滋賀、京都、奈良、和歌山、大阪、兵庫、中国・四国地区：岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知、九州・沖縄地区：福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄。
8. その他 本会の事務所は当分の間、次の場所におかれる。

庶務・編集 東京水産大学魚類学研究室内
〒108 東京都港区港南 4-5-7
電話 03 (471) 1251

会計・会員 日本学会事務センター内
〒113 東京都文京区弥生 2-4-16
電話 03 (817) 5801
郵便振替口座 東京 9-55247

販 売 日本学会事務センター事業部
〒113 東京都文京区本郷 6-16-3
幸伸ビル (2 階)
電話 03 (817) 5811
郵便振替口座 東京 6-92052

昭和 63 年度日本魚類学会シンポジウム企画案
硬骨魚類の雌雄性

日 時：昭和 63 年 10 月 7 日(金)
午前 10 時—午後 5 時 (予定)

場 所：東海大学海洋学部

コンピーナー：(未定)

話題提供：

1. 生殖巣の形成と性分化 濱口 哲 (新潟大教養)
2. 雌雄性と性染色体 小島吉雄 (関西学院大)
3. 精巢分化とHY抗原 長井幸史 (福井医科大)
4. 非機能的雌雄同体現象 (幼時間性現象を含む) 高橋裕哉 (北大水産)
5. 機能的雌雄同体現象 (雌性先熟雌雄同体現象を中心に) 日置勝三・鈴木克美 (東海大)
6. 機能的雌雄同体現象 (雌性先熟雌雄同体現象と雌雄同熟現象の接点) 小林弘治・鈴木克美 (東海大)
7. 機能的雌雄同体現象 (野外調査における雌雄同体性の判定と問題点) 中園明信 (九大農) (企画 東海大学 鈴木克美)

日本学術会議だより No. 8 (昭和 63 年 2 月)

日本学術会議は昭和 62 年 11 月 21 日に日本イタリア京都館ホールで、また 11 月 28 日に本会議講堂で昭和 62 年度公開講演会を開催した。テーマはそれぞれ「ハイテクと人類の将来」、「情報化と国際化」で、各界各層より多数が聴講し、成功裡に終了した。

本会議では諸外国との学術交流を目的として、昭和 58 年度から毎年 2 か国へ代表団を派遣しているが、62 年度は 11 月 7 日から 15 日まで連合王国へ、12 月 1 日から 5 日までシンガポール共和国へ、それぞれ会長または副会長以下 7 名の会員を派遣した。今回の交流の視点は「学術研究の国際性重視と国際的視野の確立」で、活発な情報、意見交換が行われた。

本会議は昭和 62 年 12 月 7 日に本会議講堂で、また 12 月 11 日に大阪ガーデンパレスで登録学術研究団体等との連絡協議会を、それぞれ東日本の団体、西日本の団体を対象にして開催した。第 103 回総会で採択された勧告等の内容紹介や、第 14 期会員推薦手続の詳しい説明などが行われ、活発な質疑応答があった。出席者数は、12 月 7 日は 339 団体 339 名、12 月 11 日は 58 団体 58 名であった。

訂 正・Errata

魚類学雑誌 34 巻 4 号に以下の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。
Japanese Journal of Ichthyology, 34(4), Arai et

al.: page 515, right column, 2nd paragraph, 7th line, read "National Science Museum" for "Natural Science Museum."